

(仮称)

自然ふれあいの森

ニュースレター 第04号

平成15年1月25日発行 発行：「(仮称)自然ふれあいの森」管理運営準備委員会

管理運営準備委員会報告

第9回／平成14年11月30日(土) ワークショップ
第10回／平成14年12月21日(土) ワークショップ

冬の到来とともに寒さも厳しくなり、また、準備委員会発足から約半年の月日が流れ、準備委員会の活動自体を振り返るうえでもいい時期になったこともあります。11月・12月の2回の準備委員会は現地での4班に分かれ



ての活動を一呼吸おき、室内で全員が一同に会しての勉強会、ワークショップを中心に行いました。

まず、11月30日に開催された準備委員会では、私たちのお手本となるような他地域で森づくりを実践されているグループの活動事例報告や、現在4つの班でそれぞれ展開している活動を組み合わせてできるような新しい活動のアイデアなどが事務局側から紹介されました。これらの報告に対し委員の面々からは積極的な質問や意見が出され活気のある会となりました。

また、12月21日に行われた準備委員会では委員会発足時にも行った「森の中であなたがやってみたいこと」をテーマに話し合うワークショップを振り返りの意味も含めて再度行い



ました。約半年の間、現地をよく知るために道なき道を行くような探検を行ったり、現地を舞台に委員自らがホスト役になってのイベントを行ったりしてきたこともあり、委員から出された「やってみたい活動」はバラエティに富み、またそれぞれの意見が現地を知ったからこそだせるリアリティを強く感じました。こうした意見を伺いながら半年間での委員の成長を感じるとともに、今後の準備委員会の活動に期待感を抱かせるワークショップとなりました。

「森の学校」 第四回（全四回） 自然ふれあいの森

森と人との新しい関わり方を求めて

最後に少し大きな視点で考えてみたいと思います。自然とは何かを人は有史以来、模索し続けてきました。自然の資源を探取して、自然環境に対し負荷を与える文明社会を形成してきた中で、時代によって様々な問い合わせがなされてきました。特に、18世紀半ばに始まったとされるイギリスでの産業革命以降、今までにない都市の加速度的な拡大と過密化の中で、緑地空間の重要性が叫ばれるようになりました。都市内での緑地の確保は、当初、ロンドン等で王室や貴族の狩猟苑や庭園の一般開放からはじまり、パリの都市改造を手がけたオスマンが「都市の肺」と呼び、広大な都市近郊の森を位置付けたり、ドイツの美学者であるヒルシュフェルトが、あらゆる市民が自然を享受することができる場所として、フォルクスガルテンを提唱したりすることから、次第に都市公

園として展開されてきました。

現在では、大量の生産、消費、廃棄という構造をもつ社会において、サステナブル（持続

可能な）社会のあり方が求められています。それを考えていくには、公園や緑地を単体で考えていくのではなく、我々の住む環境を全体として捉えることが必要なのです。それには、都市と森の接点空間をなすわち、里山等の自然環境をどのように維持していくかが重要なのです。

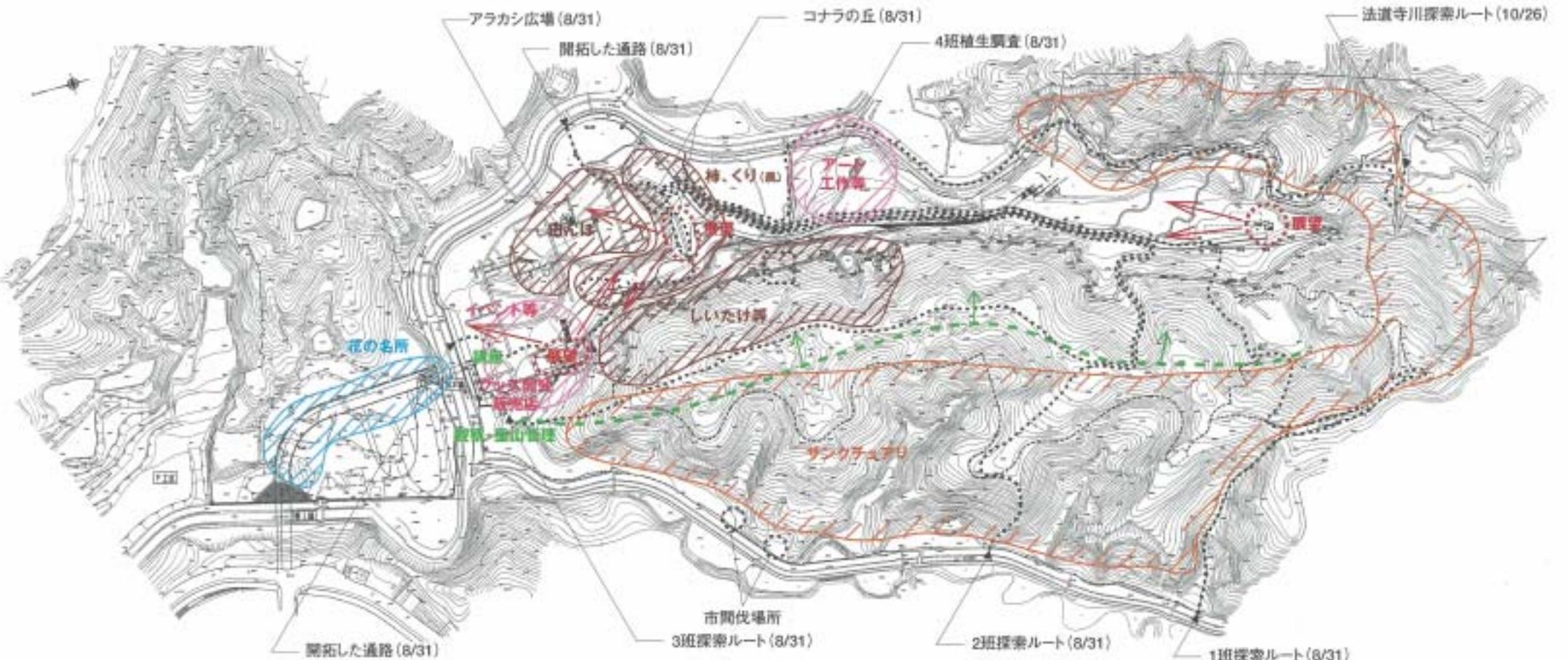
「森の学校」での活動は、このような視点にメッセージを発信していくことができることも、目標の一つだと思います。

管理運営準備委員会委員 梶原裕樹



今までの活動を振り返りながら考える、「森の中であなたがやってみたいこと」

12月21日に行われた第10回管理運営準備委員会では今までの活動を振り返りながら「森の中であなたがやってみたいこと」をテーマにしたワークショップが行われました。約半年間の現地での探検、道の整備、イベントなどの体験を経て委員から出された「やってみたい活動」はふれあいの森にふさわしく、とてもリアリティーのあるものでした。これをもとに今後も話し合いを続けていきます。



ふれあいの森をこんな森にしたい!

空間整備		里山復元		森の遊び																				
道づくり	現在計画予定されている各ゾーンへの道づくりを発展的に進める 木製材をグリップ化した道づくり	生態系との共生	植生復元	ただひたすらさけぶ																				
原木道づくり	森林道として活用したい(第一歩として)草をかきわけて歩くのではなく歩道に歩きたい、具体的には向いの段丘にある農道のような道。シンプルな利用	人と動植物と一緒に生きる森 樹木からこの木はこんな遊びにこの木はこんな生き方がある、具体的に示せるシステムづくり ジーニング別に樹木の利用が異なるその利用方法を樹名札に示しては	里山作り どうぞとも第一歩の里山とは云い難い、しかしそれなりの愛情を注ぎたいです。 将来的に以前の里山復元を始めた学者の場とした(田・堀・森等)森づくりは、絶対に作りあげてゆく必要がある 里山の復元	里山の里山を作りたい シシソウの里山の環境つくりしたい 草花を生育この他の条件に適合した(土壤風土、地城)ものを植える 山の中で四季あり百合の花が見れるようにする	水の名所	水の名所づくり	間伐・ネザサ根絶	山野菜の里山栽培をつくりたい	葉っぱにうまれてねる 森の中でごえもん風呂 知識がなくてもそこに行くだけで森みこんでくれる森 森の森を体験できるようにしたい トイチャーアスレチック(木登り、ターザン) 泥遊び、泥浴き(もう一つの遊びを知る) 五感体験できる場(赤帽トイチャーゲームを通して) 探検グループ(小学生位で少人数)各コースの森の中を歩いて里山の前面を追いつたりの楽しさを教えてあげたい 遊びながら自然のえいき、子供も大人も一緒に楽しみたいです 森の話とでお井戸が食べられるようにしたい	展望	展望がよく見える丘づくり 高い位置から自然を望めるような施設は必要、ヤグラフォリー	自然学習	調査	ネジキ	サンクチュアリ	貴重な動植物のサンクチュアリ サンクチュアリ化され、手付かずの状態を保つ	調査	観察	ネジキの冬芽は真っ赤に色付き、その年に新しく伸びた枝も同様に赤くなる。美しく色付くネジキの赤色は、花のないこの時期の里山に色を添える。この枝の赤みは、新芽が出る頃には消える。	講座	「森の学校」をひらくたい(色々な講座を定期的に)(森の側面近くで)	自然の学校 (トイチャースクール)	小学生や中高生に呼びかけて小グループを作って初心者向き保存センターを歩いて自然の楽しさを教えてあげたい 自然観察会 森を全体的にもっとかるため能力、興味と能力ごとのマッチング作成(写真等の写真を撮りをしてゆく) 小学生を対象にした里山探検(植物教室)	もっと詳しく実践を教える、柏木園(市役所、全体運用の修正構成)
水の名所	水の名所づくり	間伐・ネザサ根絶	山野菜の里山栽培をつくりたい	葉っぱにうまれてねる 森の中でごえもん風呂 知識がなくてもそこに行くだけで森みこんでくれる森 森の森を体験できるようにしたい トイチャーアスレチック(木登り、ターザン) 泥遊び、泥浴き(もう一つの遊びを知る) 五感体験できる場(赤帽トイチャーゲームを通して) 探検グループ(小学生位で少人数)各コースの森の中を歩いて里山の前面を追いつたりの楽しさを教えてあげたい 遊びながら自然のえいき、子供も大人も一緒に楽しみたいです 森の話とでお井戸が食べられるようにしたい																				
展望	展望がよく見える丘づくり 高い位置から自然を望めるような施設は必要、ヤグラフォリー	自然学習	調査	ネジキ																				
サンクチュアリ	貴重な動植物のサンクチュアリ サンクチュアリ化され、手付かずの状態を保つ	調査	観察	ネジキの冬芽は真っ赤に色付き、その年に新しく伸びた枝も同様に赤くなる。美しく色付くネジキの赤色は、花のないこの時期の里山に色を添える。この枝の赤みは、新芽が出る頃には消える。																				
講座	「森の学校」をひらくたい(色々な講座を定期的に)(森の側面近くで)	自然の学校 (トイチャースクール)	小学生や中高生に呼びかけて小グループを作って初心者向き保存センターを歩いて自然の楽しさを教えてあげたい 自然観察会 森を全体的にもっとかるため能力、興味と能力ごとのマッチング作成(写真等の写真を撮りをしてゆく) 小学生を対象にした里山探検(植物教室)	もっと詳しく実践を教える、柏木園(市役所、全体運用の修正構成)																				

ちょっとお勉強のコーナー その4

冬のツリーウオッキング

春から秋にかけては気候もよく、野外に出る機会も多いのですが、冬はどうしても出かけるのが面倒くさくなってしまいます。木も落葉樹に関してはすべての葉を落として裸の姿になり、普段見なれた木でも樹種の見分けが困難になります。しかし、よく見ると枝の先には必ず小さな冬芽がついており、樹形や樹皮だけではよく分らないとき、冬芽が決め手になります。いわば冬芽は冬の木の顔といえます。冬芽はやがて来る春に伸び出す力をじっとたくわえ、暖かい春風を待っています。この冬芽の姿をルーベや虫眼鏡でよく見ると、それぞれに寒風や雪に耐える工夫をこらしており、植物が冬を乗り越えることがいかに大変なことであるかを教えてくれます。今回はそんな冬の顔を紹介したいと思います。

リョウブ

リョウブの花鱗(冬芽を包んでいる鱗片状の葉)は質が薄く、早くから基の方ではがれて冬芽の上に傘を開いたようにのっているように見える。この傘が落ちた冬芽は、小さな葉が折りたたまれ、葉脈が鳥の羽毛のように見える。春には羽毛のような形のものがそのまま大きくなって葉を広げる。



クメギ、アベマキ、コナラ

日当たりのよい枝にマッチ棒の先ほどの小さなドングリがついている。この小さなドングリは次の秋にはあの大きなドングリに成長する。



クメギとコナラの冬芽の違いはコナラの方が小さく、枝先に多数つけることである。

クメギとアベマキは冬芽を見分けることが困難であるため、樹皮で見分けなければならない。アベマキの樹皮はコルクのような弾力があるが、クメギの樹皮は堅くてへこまない。



ネジキ

ネジキの冬芽は真っ赤に色付き、その年に新しく伸びた枝も同様に赤くなる。美しく色付くネジキの赤色は、花のないこの時期の里山に色を添える。この枝の赤みは、新芽が出る頃には消える。

冬だって里山にはいろいろと目のつどころがあって実際に楽しいものです。寒い季節ですが、思い切って外に出てその姿を探ってみて下さい。

